

「13区の総合事務所の合併は考えていない」と市長明言

3月定例議会、平良木議員の総括質疑での答弁

3月定例議会が2月28日から始まり、3月22日までの24日間行われます。

初日は市長による提案理由の説明が終わった後、総括質疑が行われ、杉田議員など4人の議員が登壇しました。

このうち、日本共産党議員団の平良木議員（下のイラスト）は、行政組織の見直し、ふるさと応援事業、自治推進事業、防災資機材整備補助事業、学びの多様化学校（いわゆる不登校特例校）の設置について市長や教育長に提案理由などを

ただしました。

注目したことのひとつは、自治推進事業についてのやりとりです。

平良木議員は、「地域自治の推進に向けて、『地域の活動を活性化する予算』のほか、地域協議会や地域の活動団体などの検討項目について、今後の在り方を検討するとともに制度設計を行うとあるが、検討項目としてはどのようなものがあるのか。また、今後の在り方としてどのようなことを想定しているか」「総合事務所の配置まで入っているとすれば、大きな変更となるのではないかと問いました。

これにたいして中川市長は、「区域の設定、地域協議会の役割、総合事務所・まちづくりセンターの地域との関わり方、地域自治の活動を活性化する予算の仕組みや、地域の活動団体の公益的な活動の促進などを検討項目として取り組んでいる」「私としては、13区の総合事務所合併はまったく考えていない。地域協

議会が更に主体性をもってやっていけたらと思っている」と答えました。これは評価すべき重要な発言です。今後の動きを注視していきたいと思います。

もうひとつ、教育長の「学びの多様化学校（いわゆる不登校特例校）」についての答弁にも注目しました。

平良木議員が、「学びの多様化学校はどのような概要の学校として考えているか」「現在の学校と独立した学校になるのか、それとも現在の学校に併設したものとなるのか」と問うと、早川教育長は、「学びの多様化学校は、学校教育法に基づき、不登校児童生徒の実態に配慮した特別な教育課程を編成できる学校だ。少人数で子どもにとって通いやすい環境を整えることができる」とのべた一方で、「まずは現在の取組の成果と課題を検証し、その先で学びの多様化学校を検討する。時間を要することだ」と慎重な姿勢を示しました。



ハッピーカフェ、どんどん発展

2月21日、馬場秀幸県議と一緒に県立吉川高等特別支援学校を訪れ、ハッピーカフェ（右のイラスト）に入ってきました。

お客さんは大勢で、区外からの参加者も目立ちました。なかには私が書いたブログで関心を持ち、初めて参加した人もおられました。

今回もアート作品の展示が行われました。1階の廊下に設けられたアートコーナーでは、星美春さんがタブレットで描いたという「くらしのなかのピカチュウ」が展示され、本人が元気に解説してくれました。そしてうれしいことがありました。前回の1月の展示で注目した『成長の軌跡』の作者である藤岡健太さん、それに藤岡さんと同級生で、8コマ漫画集を展示している大竹要さんと会うことができたのです。2人とも明るく接してくれました。

同校のハッピーカフェは今年度の最後でした。ミニアート展の同時開催などで、どんどん発展していきそうな勢いを感じました。



【トマト】南アメリカ原産のナス科の多年生植物。漢字で「蕃茄」と書きます。子ども時代から自分の家の畑で作る食べ物としては最高級品でした。いつでもハウスなどで栽培されていて、花期はないようなものです。花言葉は「完成美」「感謝」。2月25日、吉川区赤沢にて撮影。



朝市で評判のお店のひとつ、どら焼きの町田商店です。適度な大きさ、餡の甘さ加減、最高です。

はしづめ法一の活動レポート

No.2148 2024.3.3

発行編集 日本共産党上越市議 橋爪のりかず

Tel 025-548-3628

通じないときは 090-5392-1961

E-mail hasiznyg_0808@yahoo.co.jp

URL <https://www.hose1.jp/>



ブログ「ホーセの見である記」はこちら

橋爪法一

検索

春よ来い

第七九五回 サプライズ(2)

吉川区の山間部、川谷地区のイベントでは素敵なことが必ずあります。二三日の冬まつりでもやはりありました。

サイの神に火がつけられ、煙がまっすぐ上へ上へとぼって、「こりゃ、今年は作はいいね」という声が聞こえた後でした。時間は午後四時一〇分くらいだったと思います。グランドの出入口となっている場所にとまった黒い軽乗用車のバックドアが開けられ、そこでキーボード(電子ピアノ)の演奏が始まったのです。私は事前に何も聞いていませんでしたから、「えっ、何がしまるの」と驚きました。

キーボードを演奏していた人は、後でわかったのですが、石谷にUターンしたヒデキさんでした。演奏曲は美空ひばりが歌ったあの名曲、「川の流れるよこら」です。車の後部で奏(かな)でられた曲は、グランドにいた冬まつり参加者へはもちろんのこと、旧川谷校の坂道のそばにある大きな杉や、「ミナミダケ」(屋号)の家の方までどんどん広がっていききました。ちょうどタイミングよく雪がちらちらと舞い、演奏を盛り立ててくれました。

積雪五〇センチほどのグランドにいたのは約四〇人の参加者です。演奏が始まるとときに歌声も始まりました。「タキ」(屋号)の和子さんは左手の先に歌詞カードを持ち、まるで独唱しているようなスタイルで歌っていました。「マエヤマ」(屋号)の子ヨ子さんは三輪さん夫婦の歌詞カードをのぞき込んで歌っています。多くの人が体をゆすり、「ああ川の流れるように……」とやっています。

演奏の二曲目は「川谷校校歌」です。いうまでもなく、地元の人たちには馴染みの歌です。私も何度か歌ってききましたが、キーボードの伴奏があるなかで歌うのは初めてでした。

ヒデキさんは前奏の段階から乗りに乗っ

ていました。オレンジ色の毛糸の帽子をかぶり、黒いアノラックを着たヒデキさんは、時には腰を低くし、右足を少し上げてたり下げたりしながらリズムを取り演奏していました。その姿は、まさに雪上ミュージシャンだと思いました。

前奏が始まって約三〇秒後、ヒデキさんはグランドにいる人たちの方へ体をひねると、左手をいったん縮めて、大きく伸ばしました。「さあ、歌いましょう」という合図です。

♪里また里の つらねなる 頸城平を 目の下に……

グランドにいた人たちは一斉に歌い始めました。多くの人が歌詞カードを見ながら歌うなかで、「タカヤマ」(屋号)の一志さん、お寺の彰英さんなど何人かは、歌詞をそらんじているのでしよう、何も見ないで歌っていました。

校歌の最後、「山を範(のり)としもろ共に こころを高く 世に生きむ」まで歌い終わると、グランドにいる人たちの心はずっかり一つになっていました。そしてキーボードを弾いてくれたヒデキさんを称えたい気持ちが一気に高まりました。

地域おこし協力隊の宇野さん、元協力隊の石川さん、たましぎ農園の玉実さんのお父さん、吉川総合事務所の平原さんがヒデキさんのそばに行き、そのうちの誰かが「ヒデキ、頑張った」と声をかけました。みんなが感動したのです。そして「ミナミダケ」の豊子さんは、豊子さんらしいやり方で気持ちを伝えました。サイの神の火で焼いたチクワを竹竿につけたまま持参し、ヒデキさんに食べてもらったのです。

ヒデキさんは、「予想以上に間違った」と照れくさそうでしたが、冬まつりを最高に盛り上げてくれました。川谷地区を元気にする希望の演奏です。夏の運動会以来のサプライズに私も酔いしれました。

灯の回廊、第2弾もにぎやか

2月24日は「灯の回廊」の第2弾。私は大島、安塚、高士地区を回りました。

大島区では、ほくほく大島駅前でも玉コソニャクを食べ、菅蒲の飯田邸で天ぷらそばを食べて、地域の人たちと交流しました。

安塚区では船倉で焼いた餅を走りになり、専敬寺前広場に着いたら、もう満腹で食べられませんでしたが。そのかわり、ここではろうそくの灯りをたっぷりと楽しみました。

高士では花火とろうそくの灯りでいやされました。

雪が少なかったなかでみなさん、頑張っていましたね。



ニュースフラッシュ

上越地域各消防署における空間放射線量率測定結果

測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。消防署によると、通常は1時間当たり0.016~0.16μSv(マイクロシーベルト)だとのこと。

	2月21日(水)	2月28日(水)
上越南消防署	0.053	0.057
上越北消防署	0.053	0.043
新井消防署	0.050	0.050
頸北消防署	0.057	0.053
頸南消防署	0.070	0.070
東頸消防署	0.050	0.043
名立分遣所	0.057	0.057
高士分遣所	0.053	0.047

春よ来い

第七九五回 サプライズ(2)

吉川区の山間部、川谷地区のイベントでは素敵なことが必ずあります。二三日の冬まつりでもやはりありました。

サイの神に火がつけられ、煙がまっすぐ上へ上へとぼって、「こりゃ、今年は作はいいね」という声が聞こえた後でした。時間は午後四時一〇分くらいだったと思います。グランドの出入口となっている場所にとまった黒い軽乗用車のバックドアが開けられ、そこでキーボード(電子ピアノ)の演奏が始まったのです。私は事前に何も聞いていませんでしたから、「えっ、何がはじまるの」と驚きました。

キーボードを演奏していた人は、後でわかったのですが、石谷にUターンしたヒデキさんでした。演奏曲は美空ひばりが歌ったあの名曲、「川の流れるよこら」です。車の後部で奏(かな)でられた曲は、グランドにいた冬まつり参加者へはもちろんのこと、旧川谷校の坂道のそばにある大きな杉や、「ミナミダケ」(屋号)の家の方までどんどん広がっていききました。ちょうどタイミングよく雪がちらちらと舞い、演奏を盛り立ててくれました。

積雪五〇センチほどのグランドにいたのは約四〇人の参加者です。演奏が始まるたびに歌声も始まりました。「タキ」(屋号)の和子さんは左手の先に歌詞カードを持ち、まるで独唱しているようなスタイルで歌っていました。「マエヤマ」(屋号)の子ヨ子さんは三輪さん夫婦の歌詞カードをのぞき込んで歌っています。多くの人が体をゆすり、「ああ川の流れるように……」とやっています。

演奏の二曲目は「川谷校校歌」です。いうまでもなく、地元の人たちには馴染みの歌です。私も何度か歌ってききましたが、キーボードの伴奏があるなかで歌うのは初めてでした。ヒデキさんは前奏の段階から乗りに乗っ

ていました。オレンジ色の毛糸の帽子をかぶり、黒いアノラックを着たヒデキさんは、時には腰を低くし、右足を少し上げてたり下げたりしながらリズムを取り演奏していました。その姿は、まさに雪上ミュージシャンだと思いました。

前奏が始まって約三〇秒後、ヒデキさんはグランドにいる人たちの方へ体をひねると、左手をいったん縮めて、大きく伸ばしました。「さあ、歌いましょう」という合図です。
♪里また里の つらねなる 頸城平を 目の下に……

グランドにいた人たちは一斉に歌い始めました。多くの人が歌詞カードを見ながら歌うなかで、「タカヤマ」(屋号)の一志さん、お寺の彰英さんなど何人かは、歌詞をそらんじているのでしよう、何も見ないで歌っていました。

校歌の最後、「山を範(のり)としもろ共に ころろを高く 世に生きむ」まで歌い終わると、グランドにいる人たちの心はずっかり一つになっていました。そしてキーボードを弾いてくれたヒデキさんを称えたい気持ちが一気に高まりました。

地域おこし協力隊の宇野さん、元協力隊の石川さん、たましぎ農園の玉実さんのお父さん、吉川総合事務所の平原さんがヒデキさんのそばに行き、そのうちの誰かが「ヒデキ、頑張った」と声をかけました。みんなが感動したのです。そして「ミナミダケ」の豊子さんは、豊子さんらしいやり方で気持ちを伝えました。サイの神の火で焼いたチクワを竹竿につけたまま持参し、ヒデキさんに食べてもらったのです。

ヒデキさんは、「予想以上に間違った」と照れくさそうでしたが、冬まつりを最高に盛り上げてくれました。川谷地区を元気にする希望の演奏です。夏の運動会以来のサプライズに私も酔いしれました。

灯の回廊、第2弾もにぎやか



2月24日は「灯の回廊」の第2弾。私は大島、安塚、高士地区を回りました。大島区では、ほくほく大島駅前でも玉コソニャクを食べ、菅蒲の飯田邸で天ぷらそばを食べて、地域の人たちと交流しました。安塚区では船倉で焼いた餅を走馬になり、専敬寺前広場に着いたら、もう満腹で食べられません。そのかわり、ここではろうそくの灯りをたっぷりと楽しみました。高士では花火とろうそくの灯りでいやされました。上のイラストは船倉の元気なお母さんたちです。

ニュースフラッシュ

上越地域各消防署における空間放射線量率測定結果

測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。消防署によると、通常は1時間当たり0.016~0.16μSv(マイクロシーベルト)だとのこと。

	2月21日(水)	2月28日(水)
上越南消防署	0.053	0.057
上越北消防署	0.053	0.043
新井消防署	0.050	0.050
頸北消防署	0.057	0.053
頸南消防署	0.070	0.070
東頸消防署	0.050	0.043
名立分遣所	0.057	0.057
高士分遣所	0.053	0.047